

【審査委員会特別賞】

団体名	南相馬市未来へのつばさ育成プロジェクト
活動の内容（概要）	本団体は、子ども達が将来を前向きに捉え、社会に羽ばたく力をつけられるように、市内全中学校において、専門家と社会人による「出前講座」を提供し、各学年の成長にあわせ「夢の実現の仕方」「ビジネスマナー」「傾聴力」「インタビュー力」などのキャリア教育に取り組んでいる。

受賞理由

- ・東日本大震災被災から間を置くことなく活動を開始したことを高く評価したい。
- ・幅広い職種の実験や、いわゆるアクティブラーニングの手法なども採り入れた授業など、レベルの高いキャリア教育が市内の全中学校、全学年で行われている点も良い。福島の復興を支える多様な人材づくりに寄与するプログラムであると思う。
- ・キャリア教育にフォーカスし、NPO、行政、企業が協働的に動いてきたプロセスには、熱い思いとともに、継続性のあるプログラムにすべき戦略と実行力、評価の視点がある。
- ・学校の状況を熟知したうえで、地域社会の強みを活かしたカリキュラムであるとともに、企業からの動きが生まれたことなど、社会にひらかれた教育課程の実現につながる、先進的な活動である。
- ・震災後に産業構造をはじめ、地域の社会環境が激変するなか、子供たちに将来をポジティブに考えさせるという明確な目的が感じられる取り組みである。
- ・子供の視野を広げる多種多様な講師による出前講座や「コミュニケーション」「ビジネスマナー」等のワークショップも企画され、創意工夫がなされている。

連携・協働している機関や団体、組織

【教育関係者（学校、教育委員会等の機関や団体）】

南相馬市教育委員会、南相馬市立中学校全校

【行政や地域・社会、産業界等】

NPO法人南相馬こどものつばさ、南相馬市市民生活部文化スポーツ課、NPO法人16歳の仕事塾、キャリアデザイン SAKURA

活動開始の経緯

【活動開始時期】平成25年～ 【継続年数】4年

東日本大震災、福島第一原発の事故を受け、地域の産業構造が変わる中、子供達が将来を前向きに捉えることが難しくなっているとの指摘が教員やPTAから上がった。児童生徒対象に保養・交流キャンプを提供してきた南相馬こどものつばさは、市教育委員会の協力を得て、東京ほかの地域で職場体験キャンプを平成25年夏から開催、同時に市内原町第一中学校でコミュニケーション力講座の提供を開始した。

「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など

キャリア教育キャンプは南相馬市PTA協議会および教職員を中心に作ったNPO法人南相馬こどものつばさが企画、運営をした。市内の小学5年生～中学2年生20名程が東京近郊の企業6社を訪問体験すると同時に、ビジネスマナーや「仕事と社会と自分について知るワークショップ」などを行った。被災地支援者のネットワークから企業に協力依頼したことによって、被災した子どもの状況に理解ある企業への訪問が可能となった。教育委員会および市内各小中学校は参加者募集にあたり、チラシの配布、学校放送での広報活動の支援をした。一方、キャンプで一部の生徒が体験するだけではなく、市内の全中学で1年生から3年生まで段階をおってキャリア教育授業を行う必要があるという考えのもと、教育長、教育委員会学校教育課が校長会に対し提案を行い、キャリア教育出前講座を各学年2時限行うことになった。教育委員会が全6校の日程の調整を担っている。学年ごとに実施適正時期を提案し、特に2年生の職場体験が有意義なものになるように、各校の進捗状況に合わせて、講座を提供できるように努めている。



<キャリアキャンプの仕事体験の様子>

「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など

当初少人数のキャリアキャンプからスタートしたが、地域の全生徒に社会に出る時に自信を持って前に進める力をつけてもらいたいと、全中学校での出前授業に集中する形に転換し、職場体験を実施する2年生については全学校、1・3年生については、3力年で全学校に提供できるように、段階を踏んで修正を加えながら行ってきた。実施後に各校担当教員、および参加した生徒にアンケートを実施。生徒、教員のニーズにあっているか、評価を確認することで、次回の内容の見直しを行っている。2年生については職場体験にその成果が生かされているのか、受け入れ企業などの反響も確認し、参考としている。

「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など

第一原発事故による漁業、農業の操業停止や休止、工場などの撤退などにより、地域の産業構造が変化し、また大人たちの姿も希望に満ちたものばかりでない状況の中、地域外の人々の手を借りて「働くこと」の意義、楽しさを子ども達に伝えることは急務だった。そこで「出前講座」では、1年生にはキャリアカウンセラーによる「仕事について自分の関心や興味について知る」「夢の実現の仕方」の授業を行い、家業を継ぐなどの選択肢がなくなった生徒達にも、早い段階で幅広い仕事について知り、自分の可能性を知る機会を提供している。2年生は秋に職場体験を行うが、震災後避難生活などによる課題を抱えた生徒への対応などで多忙な教員をサポートするためにも、事前に「ビジネスマナー」「コミュニケーションの大事さ」の授業を行っている。3年生には、進路を現実的に考える時期ということで、社会人の先輩に



<インタビューワークショップの様子>

インタビューをするワークショップを実施している。地域の事業所が減り、復興で多忙な中で、招く人材は、市内に限定せず、世界をまたにかけて働いている人、被災地復興に取り組んでいる人、困難を克服して夢を実現した人など、子どもたちの視野を広げ、支えになる話しが出来る方に依頼している。全てのプログラムにおいて学校の教科学習の意欲も高めることにつながるように内容を考慮し実施している。

「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

NPO 法人南相馬こどものつばさは、市内小中学校のPTA 協議会と教員有志を多く会員に持つという背景から、キャリア教育の実施についても地域の保護者からの支援を得て行ってきた。各校のPTA 関係者が授業を参観し、意見交換したり、外部からの講師を市内の被災状況見学の案内などを行ってくれるなどをして、授業内容の充実に寄与している。市広報誌ほか、地域の新聞やラジオ局に取材を積極的に呼びかけ、受け入れることで、地域に広く活動内容を知らしめている。域内の企業経営者や、ハローワークからの見学、今後の連携の可能性についての申し出があるなど、地域内でのキャリア教育推進への機運を高めている。社会人講師として訪れたエンジンの専門家が、地域のロボット産業界との連携したプログラムを展開できないか模索するなど、外からの目で地域の財産を見直し、活かす授業作りなども検討している。

学校現場の評価・感想・コメント

生徒のアンケートでのキャリア教育出前講座の満足度は、どの学年でも「満足」と答える生徒が80%を超えるという結果となっている。生徒からは「自分の夢をかなえるためにこれからどうすればいいかを考えることができた。」(1年生)「第一印象が大事なので、明るく元気な印象を与えたいと思いました。ペアでいろいろゆったりして楽しかったです。」(2年生)「自分の進路についてもう一度考えてみようと思った」「今、勉強をしなければならなかった。夢を持つ大切さを学んだ。」(3年生)など、前向きな感想が寄せられている。学校からは「生徒が講座の後早速実行したり、教師の指導もしやすくなった」「生徒が何かを始めようとする意識作りにとっても役立った」「職場体験の基礎となり得る授業だった」との評価も高く、継続して事業を進めてほしいという要望が多い。



<多様な仕事と自分の関心を知るワークショップの様子>

関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど

NPO 法人南相馬こどものつばさは、出前授業の前身であるキャリアキャンプの企画実施と出前講座のプログラム内容作りに携わってきたが、なによりも市教育委員会が講座を全中学校で実施するとしたことが非常に良かったと感じている。自分の未来を前向きに考え、実行していく方法や技術を知ることは被災後の不安定な状況にある中学生にとって必要だとして、教員、カウンセラーたちと意見交換しプログラム内容を練ってきたが、4年目の今年学校を訪れると生徒のコミュニケーション力などが上がっていると実感できた。社会人講師からも、生徒の質問内容のレベルが高いとの評価をいただき、職場体験先の事業所から生徒の挨拶や態度が好評であることを大変喜ばしく感じている。